

## 2017年度活動レポート

(平成29年度事業報告書)

2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日



一般財団法人 日本アムウェイ財団

(2017年6月21日付で一般財団法人 日本アムウェイOne by One財団から名称変更しました。)

## はじめに

「被災者を決して忘れないこと」「希望を届けること」。

この2つの理念を軸に地域コミュニティの再生を長期支援する活動。それが「Remember HOPE(希望を忘れない)東北復興支援プロジェクト」です。

私たちは、東日本大震災の発生直後から被災地の皆さまにお話を伺い、真の復興には地域コミュニティの結びつき、絆の再生が不可欠であるという思いに至りました。震災の翌2012年、私たちはコミュニティ再生プロジェクトを立ち上げました。これまでに地元の行政や関係団体の皆さまと連携しながら、甚大な震災被害を受けた東北被災地3県(岩手、宮城、福島)に4棟のコミュニティ施設を建設し、地域の皆さまやボランティアの皆さまとともに笑顔を取り戻す場づくりを行っています。

今年度、新たに陸前高田市に建設される施設の設計デザインを、本活動に賛同いただいた建築家の隈研吾氏に手がけていただくことが決まりました。自然とのつながりを活かし、伝統的な技術や地元の素材を使ったデザインとなっています。市が掲げる「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」のビジョンを実現する拠点となり、地元の皆さんにも誇りと思っただけの施設となることへの期待を高めています。

この活動は、約8,000名の定期寄付者をはじめとする多くの支援者の皆さまによって支えられています。長期的かつ継続的にご支援をいただいていることに、心より感謝申し上げます。今後も、コミュニティ施設の建設と活用を通して、人々が集う場と機会を提供し「まちのにぎわい」を取り戻すための支援を続けていきます。

東日本大震災から7年。国は震災復興の最終目標に「まちのにぎわい」を取り戻すことを掲げ、「新しい東北」へ向けた取り組みを続けています。自律的かつ持続的な地域社会を目指して、東北では今、自治体・民間企業・大学・NPOなどが一体となる取り組みが始まり、当財団もこれまで以上の使命を感じています。私たちは皆様と共に東北の再生のサポートを続けていく所存です。

一般財団法人 日本アムウェイ財団 代表理事  
佟 嘉楓

### 陸前高田アムウェイハウス(仮称)

(岩手県陸前高田市) 2019年完成予定



※写真はイメージです。

### アムウェイハウス相馬 さとばたけ報徳センター

(福島県相馬市) 2014年11月完成



### 野田村アムウェイハウス

(岩手県野田村) 2015年12月完成



### 大槌アムウェイハウス

(岩手県大槌町) 2015年12月完成



### 南三陸ポータルセンター アムウェイハウス

(宮城県南三陸町) 2013年8月完成



## 活動報告

本年度は、5棟目のコミュニティハウスの新設プロジェクトが進められている他、各ハウスを拠点とした活動、イベントを多数開催しました。地域によって異なるニーズに対応するため、当財団の活動主旨にご賛同いただいた企業や団体と連携し、プログラムの企画、提供を行いました。年間の総ボランティア時間は、5,245時間にのびりました。

### 陸前高田アムウェイハウス（仮称） 2019年完成予定

本施設は、岩手県陸前高田市の中心市街地に位置し、市内外から訪れる際に交通機関の拠点となる「交通広場」と、BRT（バス高速システム）「新陸前高田駅」に隣接し、アクセスのよい場所に建設する予定です。ハウス内には、交流センター、育児支援施設、障がい者就労支援カフェ、市民福祉相談センター、観光物産案内所の入居が予定されています。陸前高田市が目標として掲げる「地元の人、まちを訪れる人、お年寄りから子どもまで、すべての人にとって希望が持てるまちづくり」。これを実現するための拠点となり、官民連携によるまちづくりのモデルケースとなることを目指しています。

開設：2019年予定                      運営：陸前高田市  
敷地面積：約1800㎡（予定）        所在地：陸前高田市 高田町



※写真はイメージです。

### プロジェクト報告

海と陸をつなぐまちの美しさを活かし、地元の素材（気仙杉）を使った親しみやすい建物のデザインに決定しました。2017年10月に行ったデザイン発表会の場で、設計デザインを委託した世界的な建築家の隈研吾氏から「東北地方で伝統的な気仙大工の技を最大限に取り入れ、歴史や文化を感じられる建物をつくりたい」との思いが語られました。新国立競技場整備事業も手掛ける隈氏は南三陸町のランドデザインを手掛けるなど、これまでも東北支援に携わられています。

※気仙大工は、日本四大名工とされる優れた建築技術を誇る職人集団で、岩手県気仙地方の大工の呼称です。



2017年10月 デザイン発表会で説明する隈研吾氏



海側からみた模型イメージ。手前のスロープを通して海と街が見える展望デッキにあがれます。

## 南三陸ポータルセンター アムウェイハウス

1棟目のコミュニティ施設として5年前に開所したこの施設は住宅や公的施設を失った地域の方たちが集う場として利用されてきました。最近では三陸自動車道のインターチェンジができ、近隣地域から訪れやすい地域となりました。観光協会が入居しているこの施設は、南三陸町の入口として、各種プログラムの集合場所、セミナー会場、台湾から来た修学旅行生との交流の場など活用の幅を広げて、情報発信の拠点にも使われています。

開設：2013年8月

敷地面積：2100㎡

延床面積：250㎡

運営：南三陸町観光協会

所在地：宮城県本吉郡南三陸町志津川字御前下51-1



## 主な活動

木製遊具が老朽化したため、新たな遊具を寄贈し、30名のボランティアで組み立てて設置しました。遊具の周りにウッドチップを敷き詰めて遊びやすい環境づくりをしました。翌日はお披露目イベントを開催し、「えいごであそぼ」でおなじみのエリックさんのコンサートや、バルーンリリースを子ども達と一緒に行いました。設営後は、近隣の子どもの遊び場として日々利用いただいています。

2017年7月 大型木製遊具の設営・ウッドチップ、植栽整備  
大型木製遊具のお披露目イベント



ボランティアによる遊具の組み立て、設置



地元の皆さんと一緒に祝ったお披露目イベント

## アムウェイハウス相馬 さとばたけ報徳センター

この施設は、被災された地元の方だけでなく、震災によってこの地域に避難されてきた方々のコミュニティ再生の場として建設されました。ヨガやバレエなどのダンスレッスンや体操教室、国際交流会、映画鑑賞会などで、地域の住民の方に定期的に利用されています。

開設：2014年11月

敷地面積：831.90㎡

延床面積：260㎡

運営：一般社団法人相馬報徳社

所在地：福島県相馬市馬場野山越89



## 主な活動

昨年度に引き続き、地元子ども達が自然に英語に触れる機会を提供するイベントを4回実施しました。季節ごとのテーマに沿ったイベントを地元 NPO 法人 相馬国際交流会と共に企画し、ゲームや歌・踊りなどのレクリエーションを通して、地元子ども達と外国人ボランティアが楽しく交流。毎回大いに盛り上がり、アットホームなイベントとなりました。

2017年6月 ハウスクリーンアップ

国際交流イベント

2017年6月 「アメリカ独立記念日」

8月 「Enjoy Summer Vacation!」

10月 「Happy Halloween!!」

12月 「英語で祝うクリスマス!」



8月の交流イベント。風船を使ったゲームで遊ぶ



ハロウィンイベントはみんな仮装して参加

## 野田村アムウェイハウス 野田村リメンバーホープヴィレッジ ねま〜る

コミュニティスペースとテナントエリアをもつこの施設は、『ねま〜る』という愛称で親しまれています。3月には、テナントエリアにアクセサリーの制作・販売を行う店が開店しました。2016年から続く『プチよ市』では、大屋根と室内を使い、住民のコミュニティの場として定期的に活用されています。

開設：2015年12月

敷地面積：約1,200㎡

延床面積：約245.95㎡

入所可能テナント数：4

運営：野田村商工会

所在地：岩手県九戸郡野田村野田第20地割43-1



## 主な活動

昨年度に続き、ヒップホップダンススクール「ねま〜る de オド〜ル」を開催しました。著名なダンス指導者である株式会社 HANA エンタープライズ代表 深澤きよ美氏協力のもと、8月から10月にかけて計10回のレッスンを行い、野田村総合文化祭で披露しました。文化祭では、世界大会に入賞したキッズダンサーと共に、総勢46人でのコラボダンスを披露。ダンスを通し、子ども達の成長が感じられたスクールとなりました。

2017年8～10月 ヒップホップダンススクール(計10回)

8月 LIGHT UP NIPPON - 復興花火お祭り(物品寄付)

12月 ダンス映像上映会(物品寄付)



深澤きよ美氏によるダンスレッスン



野田村の子ども達と湘南のダンススクールの子も達と全員で

## 大槌アムウェイハウス リメンバーホープ 浪板海岸ヴィレッジ

三陸復興国立公園 浪板海岸園地事業の公園施設内に位置し、サーフショップなどの3つのテナントを併設しています。ヴィレッジ周辺では芝生醸成・トランポリンやテラス席が設置されており、人のにぎわいをとり戻す場として利用されています。地元で8月に開催される花火大会の会場としても利用されています。

開設：2015年12月

テナントオープン：2016年4月

敷地面積：1661㎡

延床面積：276.86㎡

入所可能テナント数：3

運営：復興まちづくり大槌株式会社

所在地：岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里第14地割3-1



 GOOD DESIGN AWARD 2016

## 主な活動

4月には地元の方のスケボーランページ制作に協力。5月には、施設前のエリアで芝植えや花壇づくりなどを行う「庭フェス」を共催するなど、施設や周辺環境づくりの活動を多く行いました。ボランティアとして住民の方と一緒に活動し、より交流を深める機会となりました。また、8月の花火大会では、光るブレスレットを寄贈し、花火大会を彩りました。

4月 スケボーランページ制作 協賛

5月 「庭フェス」協賛・ボランティアサポート

8月 LIGHT UP NIPPON - 復興花火お祭り(物品寄付)



庭フェスでは、ボランティアによる芝貼り



花火のあがる日のお祭りでの様子

## 年間活動報告 〈ファンドレイジング〉

2017年度、2億1千万円を超えるご寄付、ご支援をいただきました。

寄付金は、被災地に建つ4棟のアムウェイハウスの維持・管理、5棟目となる新たなアムウェイハウスの建設、および各ハウスを拠点とした地域支援プログラムのために活用させていただきます。

2018年3月31日時点

日本アムウェイ10円マッチング基金	96,575,480
日本アムウェイ社員による募金	2,528,000
日本アムウェイ ディストリビューターによる My 月支援金	88,305,000
日本アムウェイ ディストリビューターによる500円募金	1,089,203
当財団口座宛 寄付金	2,975,534
日本アムウェイからの寄付金(チャリティイベント他)	18,872,573
チャリティグッズ収益	1,157,000
その他	538,251
<b>TOTAL</b>	<b>212,041,041</b>

(円)

収支報告の詳細は <http://csr.amway.co.jp/> 上に開示しております。



## 表彰実績

これまでの Remember HOPE 東北支援活動の取り組みに対し、下記表彰をいただきました。震災から7年、東北支援への関心が薄くなる中で、当財団の活動を評価いただいたことは東北への継続的支援の大きな励みとなっています。



### 第14回 企業フィランソロピー大賞

この賞は、経営理念に則った社会貢献活動を行う企業及びプロジェクトを顕彰するため、公益社団法人日本フィランソロピー協会が創設したものです。Remember HOPE は「希望のコミュニティ賞」として表彰されました。被災地の「コミュニティ崩壊の危機」の訴えを受け、人々が集える場所としてのコミュニティ施設(アムウェイハウス)を建設し、人々が地域で力を発揮する場の広がり支援する活動として評価されました。

<http://www.philanthropy.or.jp/award/14/>



**GOOD DESIGN  
AWARD 2016**

### グッドデザイン賞2016

受賞対象：

岩手県大槌町 Remember HOPE 浪板海岸ヴィレッジ  
(大槌アムウェイハウス)

この受賞は、「短期間の設計施工一括発注という実務上の課題への対応と、豊かな震災復興への解答を両立し、美しい風景として立ち上げている。また、道と海をつなぐ場としても機能している」という点が評価されました。

<https://www.g-mark.org/award/describe/44364>

**THE GOLD  
STANDARD  
AWARDS 2016**

### ゴールド・スタンダード・アワード

この賞は、広報関係者向け雑誌「パブリック アフェアズ アジア」がアジア太平洋全域を対象として主催するものです。Remember HOPE は「企業社会貢献(国内)」部門で、トップ3に選出されました。長期的な社会貢献活動を通して企業・団体が社会的責任を果たしつつ、企業・団体のレピュテーション向上に貢献していることが評価されました。

<http://publicaffairsasia.com/goldstandard/awards/>

## その他の活動

被災の記憶が薄れていく中、被災地以外でも復興支援ができる企画や、被災地の皆さんの知恵を全国に伝えるために書籍を出版しました。

### 東北復興支援 スペシャルコースメニューの提供

食を通じた復興支援を目指し、東京スカイツリー ソラマチ「鉄板焼 摩天楼」にてオリジナルコースメニューを提供。料理には、アムウェイハウスがある南三陸町の旬な食材がふんだんに使用されました。この企画は南三陸町にゆかりのあるグルメリポーターの彦摩呂さん、「鉄板焼 摩天楼」を運営する株式会社テン・スターズ・ダイニング 南三陸町観光協会の協力のもと実施し、本コースの売上げの一部を当財団に寄付いただきました。

期間：2017年12月6日(水)～2018年1月31日(水)



2017年12月 お披露目&試食セレモニー

### 「被災地から学ぶ かぞくの防災」書籍発売

近年関心が高まっている「防災」をテーマにした書籍を出版しました。もしもの時、家族を守るために何をすべきか。当時の状況に立ち返り、震災から学んだ教訓を一冊にまとめました。本書には、アムウェイハウス建設地域にお住いの被災者の体験談、石田純一・東尾理子ご夫妻のインタビューを掲載。様々な視点から「防災」について考えた本です。



#### 「被災地から学ぶ かぞくの防災」

発売日：2018年3月9日(金)

共著：一般財団法人日本アムウェイ財団、  
徳間書店かぞくの防災調査班 共著

監修：片田敏孝(東京大学大学院情報学環 特任教授)

発行：株式会社徳間書店

価格：1,500円(税別)/ A5判120ページ



2018年3月 出版記念イベント

## 財団概要

所在地 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町7-1  
日本アムウェイ合同会社内

設立日 2013年8月1日

代表理事 佟 嘉楓  
評議員会長 ピーター・ストライダム  
評議員 マーク・バイダーウィーデン  
評議員 マーク・ディビッドソン

監事 上田 寛一  
理事 岩城 淳子  
理事 赤堀 いづみ

事務局長 池部 カンナ  
事務局 黒石田 和美  
会計 宮川 俊雄

